

### Ⅲ 『バンキシャ』の制作体制

本件放送の当時、『バンキシャ』には36人のスタッフがいた。36人中、社員は10人で、他は制作会社からの派遣であり、契約に基づいてスタッフルームに常駐し、番組制作に当たっていた。

全体を率いるのは、いずれも日本テレビ社員であるチーフプロデューサー、プロデューサー、総合演出である。他のスタッフはおおむね2班に分かれ、1週ごとに「メイン」班、「サブ」班と交代し、番組を制作していた。メインとなった班が放送を担当する週は、サブの班がその応援・サポートにまわる。幹部スタッフはつねに2班の動きを掌握し、指示する立場である。

1つの班は、デスク1人、統括ディレクター2人、ディレクター5～6人、アシスタント・ディレクター5人程度で構成される。デスクは社員だが、ディレクターとアシスタント・ディレクターの多くは制作会社からの派遣である。ディレクターとアシスタント・ディレクターのほとんどは、以前は情報系番組の制作をしており、『バンキシャ』にきて初めて報道に携わることになったという。『バンキシャ』の放送開始当初からのスタッフもいれば、最近配属されたばかりのスタッフもいて、報道番組の経験年数はまちまちであった。

\*

『バンキシャ』は毎週日曜日夕に放送されるが、通常、放送に向けての制作の流れは次のようになっていた。

月曜日……取り上げるべきテーマのあたりをつけ、リサーチを始める。

火曜日……同様にリサーチがつづくが、総合演出やデスクの判断で有力なテーマについては取材を開始することもある。

水曜日……夜8時からスタッフ全員による全体会議が開かれる。デスクと統括ディレクターからテーマの提案と取材対象、内容、テーマのまとめ方の方向性等についての説明があり、全体の検討を経て、テーマが決定される。ただ、実際は、幹部スタッフの指示により、メイン班もサブ班も先行取材に出かけていることが多く、全員が集まることは少ないという。

木曜日～金曜日……メイン班がテーマに沿って取材に走るが、ほとんどの場合、サブ班もその支援の取材で動いている。

土曜日……VTR素材の編集。内容に応じて、追加取材も行われる。

日曜日……朝からプロデューサー、総合演出、デスクと各テーマの担当者らが編集済みVTRのプレビューを行い、必要な場合には修正する。ナレーションの収録、テロップの挿入。そして、本番に臨み、放送する。その後の反省会。

\*

本件放送に関わった制作スタッフは、13人いる。そのうち岐阜県と山口県の裏金問題の企画立案・取材・制作に関わったのは、次の8人であった（注＝各人のK、L……、A、B……等は便宜的につけたものであり、イニシャルではない）。

- Kプロデューサー
- L総合演出
- Mデスク
- N統括ディレクター
- Aディレクター……岐阜、京都、山口取材
- Bディレクター……山口取材
- Cアシスタント・ディレクター……岐阜取材
- Dアシスタント・ディレクター……岐阜、山口取材（電話によるリサーチのみ）